

動物

の

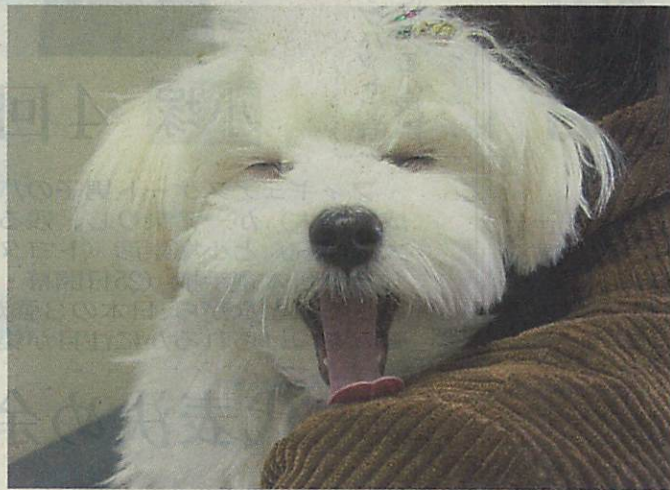
診察室

から

○ 42 ○

先日、新しいわんちゃんを飼いましたので連れて行きますと電話がありました。そして、診察の合間に待合室を見ると、そこには懐かしいお顔があり、おねえさんの腕には白くかわいいわんちゃんが抱かれています。マルチーズの女の子で、名前は「とんぷーちゃん」。目も鼻も黒くてとてもかわいい子です。でも、おねえさんたちは半年前にまだ生まれて3カ

月少しの子犬を失っていたのです。
今年の3月に、不幸なことにおねえさんのお父さまがお亡くなりになりました。その後お母さまがあまりに元気がなく寂しそだったので、おねえさんは、生後50日のマルチーズとチワワとのミックス犬をプレゼントしました。その子の名前が「とんぷー」でした。
おねえさんは、お父さまのことを「おとん、おとん、おとんぷー」とよんでいたそうです。仲がいいご家族ですね。それで、わんちゃんの名前は「とんぷー」です。でも飼いはじめからおねえさん



マルチーズの女の子、2代目とんぷーちゃん

亡き父の代役 母見守る

2代目とんぷー

月少しの子犬を失っていたのです。

今年の3月に、不幸なことにおねえさんのお父さまがお亡くなりになりました。その後お母さま

があまりに元気がなく寂しそだったので、おねえさんは、生後50日のマルチーズとチワワとのミ

ックス犬をプレゼントしました。その子の名前が「とんぷー」でした。
おねえさんは、お父さまのことを「おとん、おとん、おとんぷー」とよんでいたそうです。仲がいいご家族ですね。それで、わんちゃんの名前は「とんぷー」です。でも飼いはじめからおねえさん

私たちは、とんぷーちゃんたちは、とんぷーちゃん目が見えていないことに気がつきました。そのお薬を飲んでいました。が、症状はだんだん悪くなつていきました。そして症状の急激な悪化があり、歩くことができずクルクル回つては倒れてしまつようになりました。内科的な処置ではと

こす病気で。とんぷーちゃんは、脳圧を下げるお薬を飲んでいました。が、症状はだんだん悪くなつていきました。そして症状の急激な悪化があり、歩くことができずクルクル回つては倒れてしまつようになりました。内科的な処置ではと

んぷーちゃんを救つことはできないため、主治医の先生と一緒に、側脳室にシャントチューブを入れて、おなかの中に脳脊髄液を流す手術をおこないました。
術後の経過は順調で、10日後に退院の予定にたつていました。しかし、退院予定の日、突然症状が悪化して、とんぷーちゃんは翌日に死んでしまいました。おねえさん

私たちは、まだ一緒に暮らしてから2カ月しかたつていないとんぷーちゃんを失ってしまったのです。
お父さまの代わりに家に来たとんぷーちゃん、その子もお父さまのあとを追うように天国へ行きました。でも、初代とんぷーちゃんが死んでから5カ月後、2代目とんぷーちゃんをつれて会いに来てくれました。とてもうれしいことでした。